





令和3年 **3**月の大阪森林便り

目次

今月の木の話 妙国寺のソテツ（堺市）

- (1)  国産丸太 中国向け最高値 3月積み
- (2)  製材品、米向け輸出倍増 2020年、住宅需要が旺盛
- (3)  まな板 木製は削り直し可能
- (4)  木材・合金鉄、対日が高騰 海上運賃上昇



今月の木の話

妙国寺のソテツ（堺市）

*周囲 17M、大小 120 本ともいわれる幹枝。

*地球への出現は 1 億 5 千年前。

*自生地は東南アジア。日本では九州南部と沖縄県。

*移植可能地は静岡県が北限。

*暖帯系の植物であって限られた育ちにくい樹木。

（2008 年発刊（社）大阪府木材連合会・大阪木材仲買協同組合発行「天然記念物 巨樹・古木」より抜粋・引用）



(1) 国産丸太 中国向け最高値 3月積み

豪州産代替で引き合い 国内相場も上昇基調

- * スギなど国産丸太の中国向け輸出価格が最高値を付けました。
- * 日本国内でも丸太の需要は回復基調で、価格は上昇傾向が続きそう。
- * 2021年3月積みの輸出価格は、2020年比で25%高。
- * 豪州をはじめとする産地国で中国向け輸出量が軒並み減少。
- * 2020年12月の日本の中国向け丸太輸出量は、2019年同月比で30.6%多くなっています。
- * 中国では輸入丸太の一部を、フェンス材などの製材品に加工して米国に輸出。
- * 丸太価格は日本国内でも上昇。
チップ用針葉樹丸太の2020年の価格は、2019年比で3.2%高。
木質バイオマス発電の燃料向けの需要も強く、中国と取り合いに。
(2021年2月5日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(2) 製材品、米向け輸出倍増 2020年、住宅需要が旺盛

- * 製材品の米国向け輸出量が増えました。
2020年の輸出量は2019年比で約2倍に。
- * 米国では、低金利を背景に住宅着工が好調。
在宅勤務の広がりや郊外への転出が増えました。
DIYも人気。
- * 輸出価格も上昇。
2020年12月の米国向け製材品の平均輸出単価は、前月比3.5%高。
海上運賃高騰も影響。
- * もともと米国向けの輸出はほぼゼロ。
2016年以降、米国ではスギなどの製材品の輸入を始めました。
(2021年2月10日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) まな板 木製は削り直し可能

*日本製のまな板は天然由来の抗菌性を持つ木材を使用することが多いのですが、その代表がヒノキとイチョウ。

*昔からプロが使っていたもので、汚れたら削り直しができること、厚みがあるので長く使えることから、愛用している人は多くいました。

*最近、家庭用にと指名買いする人が急増しています。

(2021年2月20日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(4) 木材・合金鉄、対日が高騰 海上運賃上昇

コンテナ不足響く 解消長引く恐れも

*木材や製鋼原料の合金鉄など産業資材の対日価格が軒並み上昇。

*需要の回復や生産地での供給不安に、コンテナ不足による海上運賃の高騰が重なりました。

*SPFの日本向け規格の3月積み価格が、過去最高値を更新。4~6月積み価格はさらに強含むとの見方。

米国の旺盛な住宅需要と海上運賃の上昇が背景に。

*1月の日本向け運賃は、米国発が前年同月の1.8倍、欧州発も同2倍に。

*貨物の多い中国向けが優先。

*コンクリート型枠用合板は、インドネシア・マレーシアのコンテナ不足の影響で輸入量が減少。

2020年12月の合板輸入量は、2019年同月比で18.5%減少。対日価格も上昇。

*日本向け海上運賃の高止まりは当面解消されず、資材価格への影響も続きそう。

(2021年2月25日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)